

## 有難うございました

なんくる農園 松本 邦裕

前代表の中村さんの後を引き継いで2年間代表をさせていただきます。12月のあしがら農の会の総会で任期を終え次の代表:諏訪直子さんにバトンタッチ...

代表といってもメンバーの皆さんで運営されている農の会。特にやることもなかった2年間...就任当初から代表として何もできませんと公言していましたが、生まれて初めて有言実行を貫徹したと自負...???

これまで代々代表は農業者が担ってきましたが、今回初めて農業者でない市民農の代表が誕生いたします。地場・旬・自給をスローガンに活動を開始した農の会。徐々に農業者、新規就農者も増え、多くの方に宅配を利用していただくようになりました。その間市民農として、自給農として幅広く活動が展開されてきた農の会。昔の良き伝統を再現したり、ときには美や芸術にも触れ...農の会に参加させていただくことで農業、食だけにとどまらず失われつつ真の豊かな暮らしについて考え直させていただいています。農の会の活動も昨年来、放射能問題で色々と苦境にも立たされもしましたが、今後は市民的に、自給的に農業・食に係りたいと思う方が益々増えてくるだろうこの時代。市民農の代表を迎えることによって、そんな流れにマッチした農の会が新たに作られていくのだろうと考えます。

ここ1,2年特に今年になってからなんくる農園としての農業活動がとても忙しくなってきました。畑もかなり増え1町分以上となり、宅配・市・店置きと販売先も増え、更に業としてではなく色々な農業活動に係るようになってきました。これから益々厳しくなる農業問題、この先が心配となる食の問題等々。自分として、自分らしく係る方法を一市民として、一農業者として今後とも模索していくつもりです。今後新たに展開されていくあしがら農の会とともに宜しく願います。

代表としての2年間、皆さんには何かとご心配ばかりお掛けしましたが、ご協力有難うございました。今後ともあしがら農の会の活動にご理解とご協力の程宜しく願います。

皆さんで、自分たちで作り上げていく農の会に参加してみませんか...

## 祝島探訪記

山口県の祝島に行ってきました。原子力発電所の誘致計画を、島の人たちが、「自分達は海に生かされているのだから」と反対し続けている島です。「島は豊かな自然に恵まれ、島民は自然エネプロジェクトなど意識が高く、原発無しでも明るい発展が見えるから、島に行って元気をもらった」とでも書けば良いのですが、島ではちょっと違うものが見えました。

人口が減って、方々で石垣も崩れ、周囲が藪に飲み込まれつつある村で、多少クーラーも使い、山崎パンも食べる普通の婆ちゃん、おっちゃんたちが、でも案外冗談言い合って暮らしている。そんな中で「原発反対」と30年も頑張っているという姿に安心感を抱き

## 本年もありがとうございました。

早いもので、今年もあと僅か!しかし、残暑が長かった為か師走と感せず、のんびりムード。大豆の収穫、玉ねぎの定植もまだまだのこっている。しかも今年は暖冬という予報だったので、ますますのんびりしてしまった。しかし、エルニーニョ現象が終わり寒い冬になるとのこと。やはりカメムシ予報が正しかったのか!? 作業の遅れは、野菜の生長に大きく影響、大根もまだまだ小さく、人参も大きくならない!!

1年を振り返っても、あーすればよかった、こーすればよかったと反省ばかり。来年こそは、今年の反省を生かしというのが、毎年の口癖...、進歩がないひよっこです。

今年も1年ありがとうございました。新鮮な野菜を届けられるように努力し続けついでますので、来年もよろしく願います。

年末最後の配達日は12月28日(金曜日)、

来年の初荷は1月8日(火曜日)です。 吉田裕香

ました。

市民が良く勉強をして立派になって、自然食品に囲まれて、エネルギーも自給して、新しいエコ経済が回りださないと社会も政治も動かない...というわけじゃないんだよね。「海が大事だから、原発無しでやってみよう。」今住んでいる人達の、その気持ちをまず大事にして、暮らし方を考える。必ずしも、島が繁栄する道が見えるわけじゃないけど、「繁栄の仕方も、衰退の仕方も、自分達で決めるもんじゃろ。」その姿が、案外フツーなのが、素敵です。

「原発は、浮島に乗せて、東京湾に作ったっていいんだ、安全だ」と、つい数年前に発言した立派な都知事さんに比べて、数十億の飴玉や、反対派の数人を狙い撃ちするSLAPP訴訟などに、頑固に耐え続けながら日々を暮らす島民の姿は、なんと力のあることでしょうか。何も原発が必要だと言ったから悪いというわけじゃないんです。そうじゃなくて、実際には自分の意見だっただけでどこかで聞きかじっただけのくせして、恐る恐る異議を唱えている「変な人達」を、頭から馬鹿にして黙らせようとするオジサンって、ズルイって思うんです。

島の通信に「原発推進の町長は、『自分達は人並みの暮らしを目指しているだけだ。反対派は町の財政運営について、観念的で現実性がない』というが、それならば具体的に、町の財政何にいくら不足するのか出してくれ。それなしに足りる足りないの話をしてもらってそれこそ観念的だろう」とありました。エネルギー議論も、「温暖化はどうすんだ、非現実的だ」みたいな「にわか識者」の演説じゃなくて、まずそれぞれ、大事にしたいものを主張して、進めていきたいですね。

こぶた畑 相原 海

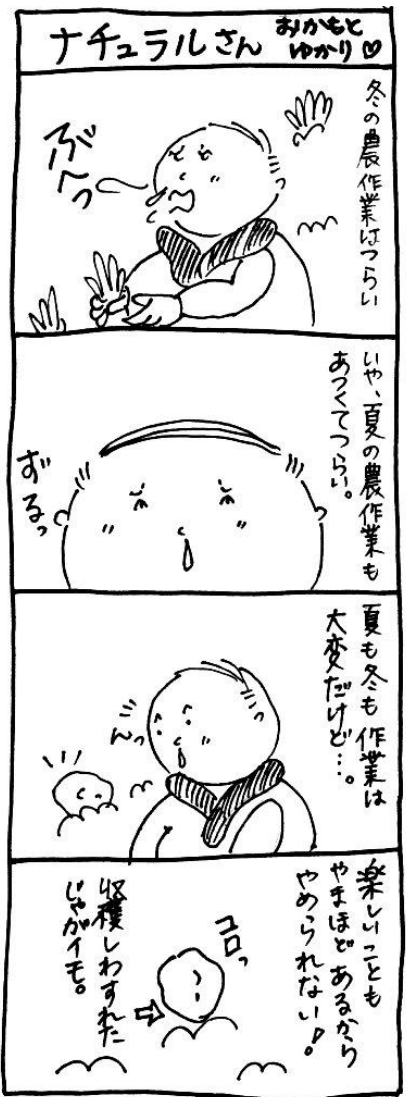
今年の8月頃から、子の神田んぼに参加しています斯波(しば)と申します。宜しくお願いします。

我が家は、高祖父の代まで山形県の蔵王の麓に居を構え、農の傍ら酒造業を営む中農でした。それが故あって、明治の頃に郷を離れ東京に移住。それから代々、農とは無縁の生活を営んで来ました。それが巡り巡って、はたまた高祖父まで脈々と続いてきた血の影響もあるのか...私は様々なご縁に恵まれ、来月にはここ小田原は久野へ移住し、半農的な生活を送ることと相成りました。

田畑は、ありがたい学びの場で、気付きに溢れていると私は思います。日々うつろいゆく田畑の表情、通りぬける風が運ぶ匂い、自然や生き物の奏でる音声は、近代を生き忘れた大切なことを思い出させてくれます。鍬の一振り、刈払い機の一薙ぎ、ぬかるんだ田んぼでの足さばきなど、様々な作業に伴う動きは、列島の風土に根ざして生きてきた私たちに相応しい、合理的な身体の動かし方を思い出させてくれるようです。そしてそのように頭と身体の間でもって感じ味わうことが、新しい命を育む循環と繋がっているということの幸い。自然のうつろい、命の行き来は、生き活きと、生々しく、そして美しく、この列島で暮らす人々と、そのような美しさは、古くからとても身近であったのではないかと。私は少しずつ、そこに還るために、田畑と親しみ、そして大いに遊び、学びを深めたいと思います。

今年もたくさんの方々から助けられて無事収穫と収穫祭を終えた子の神の田んぼは、昨年と比べて収量が三割も減ってしまいました。モノ言わぬ田んぼが何を望んでいるのか、言葉にならぬ声に心を傾け、それを見極めるのもまた、楽しいです。

子の神たんぼ・斯波克幸(しばかつゆき)



## 産業と米作り

ポチたんぼ・杉野元

日ごろ会社員生活をしていて、たまの楽しみで農業をさせていただくと非常に多くの発見があります。とくに家内制手工業のような手植え作業の大変さから、機械を扱わせていただいたときのインパクトは大きかったです。レバー操作ひとつで自動で進んでいくさまは、オートメーションの新工場を建てた工場長のような気分です。作業効率があがった反面で機械の導入により発生する設備投資、稼働効率、整備費、燃料費というタスクの発生など、ワークフローが複層化していきますね。頭の中でエクセルの工程表の工期を短縮しながら縦に行を追加している自分に笑ってしまいましたが、ここに日本のものづくりの原点があるなあと感慨深くなってしまいました。

日本人は米作りを通して、長い歴史の中で毎年毎年カイゼンをかさねながら技術を蓄積していき、それは戦後の工業発展にそのまま引き継がれたのだと思います。しかし、ひたすらに規模や効率を求めると、ものづくりに感じる「楽しさ」や「尊さ」を見失ってしまったのも今の社会が持つ大きな問題です。いいものを心を込めて作って、よく噛んで食べて、永く大事に使ってもらう。食品もモノもそういった時代に入っているのだと思います。初心忘れるべからずでこれからも楽しく真摯に米作りを続けていきたいと思っています。



## 落花生と雑草とハクビシン

10月から11月にかけて今年も落花生を収穫しました。今年は雑草に負けて一株のなり具合はイマイチでしたが、お客さんからは好評をいただいてホツとしています。

この雑草、ホームセンターで売られている玉竜のような固い葉と球根が除草すると手強いのですが、獣達も同感だったようで、近所の家庭菜園の落花生やウチのトウモロコシがハクビシンに全滅させられるなか、落花生は数粒食べた所で煩わしさに退散したようです(笑)

斉藤秀彦(ののくさ農場)

『こんな面白いことってそうはない』

(前号続) そもそも自然の方を人間の都合に合わせるなんて、これっぽっちもできないんだよね、なんて当たり前前のことも、初めて腑に落ちた。

朝飯前の田んぼ通い、これが始まってみると実に気持ちがいい。そりゃ行くたくない時もありますよ。でも夜遊びしすぎて、夜中、朝方に帰ったような日でも、なんとか起き出して、フラフラと田んぼに行くとなんだかシャキッとするのだった。田んぼにはスツキリシャキリエナジーがたっぷり満ち溢れているのだな。季節もいいじゃーん！肌寒い朝から始まって、真夏の最高に気持ちのいい風が吹く朝、さらに炎天下、徐々に涼しい風が吹き始めて、また肌寒くなり、黄金色、収穫！これが反対に秋からのスタートだったら途中でめげていたに違いない、ことには自信がある。

最初はすごく広く見えていた田んぼが、日が経つにつれて広く感じなくなった。田んぼの水路というものが実によく出来ていて、この水路こそが田んぼの生命線なのだなくということもなんとなく分かってきた。

(続く。かもしれない、、、)

(舟原田んぼ) Kimuko